



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

主な内容

- 2面 垣添会長「みちのく潮風トレイル」縦断 福島・相馬に到着
- 3面 東京マラソン2024チャリティ寄付先団体に選定
- 6面 2022年度がん検診の実施状況(子宮頸がん)

がん検診受診者減の回復へ「初めての受診」にも貢献 新たな受診機会の提供も

2022年度のがん検診デジタル無料クーポン 利用者アンケートから

コロナ禍で減ったがん検診受診者数の回復、受診機会の提供を狙った「がん検診デジタル無料クーポン」について、日本対がん協会は2022年度の利用状況をまとめた。賛同企業を含め配布枚数は3万2000枚。うち1万4500枚が利用され、受診率は45%となった。昨秋以降の利用申し込み者へのアンケートで、初受診や国が推奨する間隔よりも長く空けての受診は検診別で35~59%を占めた。協会は受診者数回復に一定の役割を果たせたとみている。

がん検診デジタル無料クーポンは、従来の無料クーポン券(紙製)を、スマホやPCで手軽に取得できるようにした。賛同企業の協力を得てシステムが開発され、2022年春から運用を始めた。まずは乳がん検診、子宮頸がん検診を対象に、検診対象者の家族やパートナーもプレゼントとして申し込めるキャンペーンを展開。秋からは大腸がん、肺がん、胃がん(X線検査)を加えた五大がん検診へ対象を広げた。

利用者アンケートは今年4月、秋以降にクーポンを配布した1万4058人を対象にインターネット経由で実施し、3816人から回答を得た。がん検診の部位別で受診歴を聞いた結果、定期的に受診している人は3~4割となった。また、初めて受診した人や国が推奨する間隔よりも長く空けて受診した人(初回受診者など)が半数以上を占めた検診もあり、デジタルクーポンの発行とキャンペーンの展開がコロナ禍で減少した受診者数の回復、新たな受診機会の提供につながったとみられる。

自由回答では「がんが見つかった」「精密検査でステージ1と分かり、早速手術を受けた。迷わず検査して良か

った」という報告のほか、「コロナ禍や物価高が続く中、予防的な検診は後回しにしてしまいがち。(キャンペーンは)万が一の不安解消、早期発見につながる」「コロナ禍で仕事を辞め、検診から遠ざかっていたが、今回は受診できた」と歓迎する言葉もあった。

個人事業主の方からは「たまたま対がん協会のホームページでキャンペーンを知り、クーポンを活用させてもらい、助かった」。契約社員の方からは「しばらく検診を受けていなかった。乳がん検診、子宮頸がん検診は社保の健診に含まれておらず不安だったが、無料で受診でき、非常に助かった」。別の方からは「転職後、がん検診が健診の項目になく、受けたくても費用が高くて諦めていた。本当に感謝している」との言葉が寄せられた。

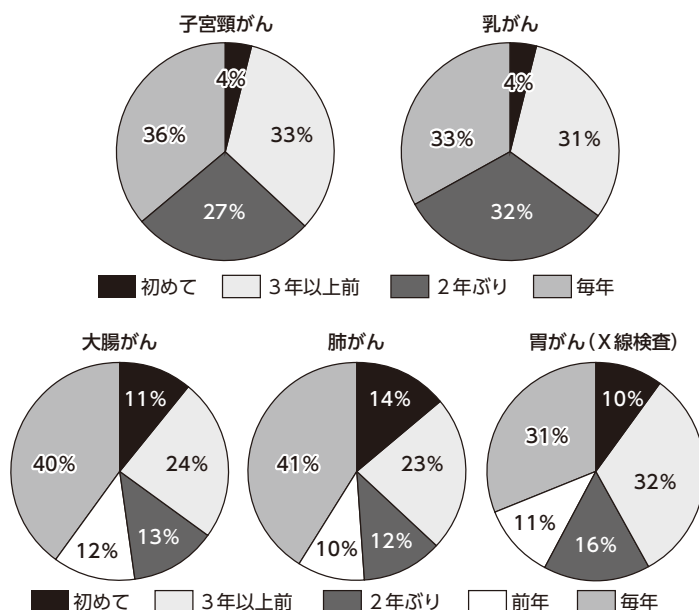
このキャンペーンで、日本対がん協会は一般社団法人日本シングルマザー支援協会(神奈川)、認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ(東京)と協力し、ひとり親家庭への受診勧奨にも取り組んだ。ある利用者からは「シングルマザー支援協会からの案内で知り、非常に助かった。受診結果は何もなく安心した。シングルマザーにな

受診間隔	種類
2年に1回	乳がん検診、子宮頸がん検診 胃がん検診(内視鏡検査)
年1回	肺がん検診、大腸がん検診 胃がん検診(胃部X線検査)

国が推奨するがん検診の受診間隔

り、子どもたちを守るのには自分しかない。結果を踏まえてがん保険にも加入した。本当に助かった」。別の方からは「無料で受けられることに、とても感謝している。身体が健康でない生きていけないので、がん検診はとても大切。シングルマザーはお金に余裕がないため、受けたくても受けられない人もいると思う。ぜひ続けてほしい」との要望もあった。

国の第4期がん対策推進基本計画は、がん検診の受診率目標を50%から60%へ引き上げた。日本対がん協会は引き続き、がん検診デジタル無料クーポンに取り組み、より多くの人へ受診機会を提供することで、受診率の向上につなげたいと考えている。



がん検診別の無料デジタルクーポン利用者(下期)の受診歴

垣添会長の「みちのく潮風トレイル」ウォーク 青森・八戸から約1000kmを縦断

福島・相馬
に到着

東北4県の太平洋岸を結ぶ自然歩道「みちのく潮風トレイル」をたどる旅を続けている日本対がん協会の垣添忠生会長は5月19日、トレイルの南端になる福島県相馬市に到着した。東日本大震災12周年となる3月11日の追悼式典に参列して以来、2カ月ぶり。これまで約1000kmを縦断する中で、被災者やがん患者を訪ね、交流を深めてきた。

第3回は5月15日、宮城県塩竈市から始まった。行程は約126km。垣添会長は17日、同県名取市の県立がんセンター(山田秀和総長)で、震災の被災者であり、がん患者である方と対

談した。白血病のサバイバーの女性で、かつ東日本大震災で自宅が半壊し、震災後に夫を胃がんで亡くしたという。対談後、Instagramに写真をアップした垣添会長は「お話を聞かせていただき、人間の強さを学ばせていただきました」と。

垣添会長は翌18日に福島県に入り、19日午後2時すぎ、みちのく潮風トレイルの南側の発着点になっている相馬市の松川浦環境公園に到着した。地元の患者会のメンバーや日本対がん協会の梅田正行理事長らが出迎えた。ゴール後、垣添会長は「完歩」をねぎらう

タスキと花束を受けた。記念撮影後、Instagramで「無事に着けて本当に良かった！来月、撮影の残りで数日出かけますが、いちおう本日を持ってゴールとします。皆さん応援有難うございました！」と締めくくった。



最終となる第4回の旅は、当初の予定が変更され、6月21、22日に、みちのく潮風トレイルを構成する宮城県松島湾の寒風沢(さぶさわ)島、野々島、桂島など離島のルートをとる予定。



◇3月27日(月) 種差海岸(青森県八戸市)

前日からの雨が上がり、好天にも恵まれて「みちのく潮風トレイル」ウォークが始まった。JR鮫駅からリレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)八戸実行委員会のメンバーも同行した。



◇4月24日(月) 第2回がスタート(岩手県釜石市)

地元でラジオ番組「医療と福祉の現場から」を放送しているRFLJ北上の実行委員、及川英樹さんからインタビュー取材を受けた。2024年、東北地方のリレーイベントをいくつか紐状に繋ぐアイデアなども出て盛り上がった。



◇5月17日(水) がんサバイバーとの対談 (宮城県名取市)

宮城県立がんセンターでがんサバイバーの方と対談した。白血病サバイバーの永沼さんは東日本大震災で自宅が半壊した。その後、夫を胃がんで失った。対談後、同センターの山田秀和総長も交えて記念撮影した。



◇5月19日(金) ゴール地点に到着(福島県相馬市)

みちのく潮風トレイルの南側の発着点となる松川浦環境公園に到着。地元の患者会「しゃくなげ会」のメンバーらが出迎えた。



東京マラソン2024チャリティ 寄付先団体に選定

日本対がん協会

6月下旬からチャリティランナーを募集

公益財団法人日本対がん協会は、2024年3月3日に開催予定の「東京マラソン2024」で、チャリティ参加のランナーの寄付先団体の一つに選ばれた。主催する東京マラソン財団が6月1日に発表した。日本対がん協会は6月下旬から、がん患者支援などの活動を応援して



東京マラソン2023の様子©東京マラソン財団

くれるチャリティランナーを募集する。

東京マラソンチャリティは、東京マラソンを通して、チャリティ活動の輪を広げる取り組み。賛同する寄付先団

体へ寄付を行うことでチャリティランナーとして東京マラソンに参加するこ

公式ウェブサイトで6月下旬に公表する予定。

東京マラソン財団チャリティ
RUN with HEART 公式ウェブサイト

<https://www.runwithheart.jp/>

休眠預金活用の「がん患者支援事業」 助成期間が終了

がん患者支援の新たな事業のモデルづくりを目指し、休眠預金を活用した助成金事業が3月末で3年間の助成期間を終了した。助成を受けた6団体(実行団体)の活動によって、がん患者の就労支援、QOL(生活の質)向上のための新しいプログラムの開発や事業モデルの導入、これまでなかった事業ツールの整備がなされた。この3年間で得た

知見や成果を生かし、6団体は事業を継続していく。

助成期間の終了を受け、実行団体の審査・採択をした選定委員会の委員長だった大野真司医師(がん研有明病院副院長・乳腺センター長)は「社会的に新型コロナで大変だった時期に素晴ら

しい取り組みをされてこれらだと思います。非常に難しい課題に取り組まれた団体もあり、3年間で答えが出るところのものではなく、皆さまが活動を継続されて何十年間という積み重ねの上で、より良いものになっていくものだ」と期待しております」と、この事業

への思いと6団体に期待するコメントを寄せた。

これまでの活動と今後の展望、課題について、6団体の代表者に聴いたインタビュー動画を特設サイト(<https://www.jcancer.jp/kyumin/>)で公開している。



	実行団体	事業内容
就労支援	一般社団法人CSRプロジェクト	企業内ピアサポーター育成で「企業」という「場」の特性を活かしたがん治療と仕事の両立支援
	一般社団法人仕事と治療の両立支援ネットブリッジ	愛知県でのがん患者就労支援、患者カウンセリングと医療・職場の連携モデルの構築
	特定非営利活動法人日本キャリア開発協会	キャリアカウンセリングと企業のしごと体験による、がん患者の就労支援
QOL向上	公益財団法人がんの子どもを守る会	小児がん経験者の晩期合併症に対する長期フォローアップと受診促進のための啓発活動
	認定NPO法人がん患者ネットワーク	がん患者の性生活(セクシュアリティ)の悩みを気軽に専門家に相談できる体制整備
	一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク	ネットワーク強化で地域の情報ギャップ解消、正確な診断とQOL向上につなげる

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/jcs/>
(ISBNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALLE BOOKS

お問合せ(株式会社バリューブックス)：0120-826-295
受付時間：10:00-21:00(月～土) 10:00-17:00(日)

第4回 対がんセミナー開催 日本対がん協会

新型コロナの5類移行、 患者・市民参画(PPI)について考える

日本対がん協会は5月12日、がんを取り巻く課題を幅広く取り上げる「対がんセミナー」をオンラインで開催した。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の区分変更の影響、がん診療の現場での患者・市民参画(PPI)の意義について、それぞれ専門家が講演。グループ支部や自治体、メディア関係者ら約170人が視聴した。

新型コロナ「5類」移行

国内では2020年1月以降、新型コロナウイルスの感染が拡大し、外出自粛やがん検診の中止・延期などで受診者数が減るなどの影響が出た。国は2023年5月、新型コロナウイルスの感染症法上の区分を「2類」から、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移した。がん検診・診療の現場への影響について、川崎市健康安全研究所の岡部信彦医師(小児科)が解説した。

岡部氏は、内閣官房新型コロナウイルス感染症対策分科会や厚労省アドバイザリーボードのメンバーを務める。講演では、学校の臨時休校、緊急事態宣言、ワクチン開発、感染を避ける新しい生活様式など3年間の出来事を振り返り、5類移行について「感染症への注意は必要だが、行動制限をかけてまで抑えなくていい。注意をすれば普通の生活ができる」と説明した。ただ、ウイルス株の変異は予想がつかない。医療機関、高齢者福祉施設など病人や高齢者などハイリスクの人がいる

場所ではクラスターの発生を回避するため、引き続き感染対策が必要だとの認識を示した。

感染症全般に対する基本的な注意は共通であり、岡部氏は「当面マスクをポケットに入れておき、これはと思うような場面では着用する。24時間3密を避ける必要はないが、流行が起きてくるとマスクの着用や手洗い、換気が非常に重要。日常生活の中で意識した方がいい」と話した。

肺癌診療 ガイドライン改訂

日本人のがんによる死亡数のうち、すい臓がんは男性で3位、女性で4位を占める。早期発見が難しく、治療後の経過も思わしくない。そうした中、すい臓がんの診断や治療などの指針となる『肺癌診療ガイドライン』が2022年度版に改訂された。これを機に、すい臓がん患者の意見が反映された意義について、改訂委員会の委員長を務めた国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科長の奥坂拓志医師が解説した。

そもそも診療ガイドラインは、医療利用者と提供者の意思決定を支援するためのものであり、患者や家族、ケア提供者、支援者の視点が盛り込まれる必要がある。しかし、これまで国内にはモデル的な診療ガイドラインはなかった。今回の改訂では、患者や一般市民の意見を反映させることとし、併せて患者・市民向けの解説書も作成した。

ガイドライン委員会には4人の患

者・市民が参画したが、さらに多くの意見を収集するためにアンケートを行うとともに、患者・市民を対象とした140あまりの論文を調査し、患者・市民からの臨床的な疑問を広く収集した。診療ガイドラインの改訂作業では、専門的な知識の少ない患者・市民が意見を述べることは簡単ではなく、また、意見を聴く医療者もどう意見をすくい上げるのか判断に迷うことが少なくない。そのため、患者・市民と医療者との橋渡し役となる医療者を複数名選任し、患者・市民の負担軽減に努めた。

解説書の作成では、医療者の原稿に患者・市民が自分たちの視点で加筆・修正を加え、最後に医療ジャーナリストがプロの視点からより分かりやすい文章に書き換えた。改訂版に対する外部評価は「対象者集団(患者・市民など)の価値観や希望が調べられた」との点が前回2019年度版より大きく伸びた。

患者・市民参画に関する内部評価では、「患者・市民の意見が反映された」「医療者にはない気づきがあった」「ガイドライン作成の本来のあり方を実現できた」と評価された一方、「患者・市民の意見を反映するのが大変だった」との意見もあった。

奥坂氏は「患者・市民参画の必要性和重要性が委員会内に醸成された」と振り返り、「日本の診療ガイドラインへの患者・市民参画は始まったばかり。社会全体で重要性を共有し、活動の輪を広げていくことが重要」と述べた。

5類感染症へ 何が変わらないか

5類になったからと言って、
軽い病気、心配な病気になり下がったわけではない

感染症に対する基本的な注意は必要！

注意をしなくても普通の生活ができる、のではなくて
注意をすれば普通の生活ができる

*医療機関や高齢者施設と、一般生活とでは
大きく異なります

「5類」移行後も感染症対策は必要だ
(講演資料より)



項目	内容	ページ
Q1-1 肺癌とは何ですか？	肺癌とは「肺がん」といいます。肺がんは呼吸器系に発生するがんです。	01-01
Q1-2 肺癌にはどのような種類がありますか？	肺癌には「肺がん」といいます。肺がんは呼吸器系に発生するがんです。	01-02
Q1-3 肺癌の原因は何ですか？	肺癌の原因は「喫煙」と「大気汚染」です。喫煙は肺癌の最大のリスク要因です。	01-03
Q1-4 肺癌の症状は何ですか？	肺癌の症状は「咳」「痰」「血痰」「胸痛」「呼吸困難」などです。	01-04
Q1-5 肺癌の診断方法は何ですか？	肺癌の診断方法は「胸部X線検査」「CT検査」「PET検査」などです。	01-05
Q1-6 肺癌の治療方法は何ですか？	肺癌の治療方法は「手術」「化学療法」「放射線療法」などです。	01-06

目次(右)にも患者・市民の意見を取り入れた(講演資料より)

第3回 がんリテセミナー

中川恵一・東大特任教授

働く世代のヘルスリテラシー向上と企業のがん対策

日本対がん協会は5月24日、「働く世代のためのがんリテラシー向上プロジェクト」の一環として、第3回がんリテセミナーをオンラインで開催した。「働く世代のヘルスリテラシーと企業のがん対策」をテーマに、東京大学大学院医学系研究科総合放射線腫瘍学講座の中川恵一特任教授が講演。企業の担当者やメディア関係者ら約200人が聴講した。

中川氏は東大病院でがんの放射線治療に携わりながら、長年、学校でのがん教育に尽力してきた。また、厚生労働省のがん対策推進企業アクション議長、がん検診のあり方に関する検討会構成員などのほか、今回の協会プロジェクトのアドバイザーを務めている。

国内のがん罹患者の3分の1は働く世代が占め、職域でのがん対策は第4期がん対策推進基本計画でも課題に挙げている。職域でがん検診の費用対効果について、大腸がん検診の受診者と非受診者にかかる費用を4年間比較した研究では、がん検診の受診者は便潜血検査や内視鏡検査で費用が掛かるが、その後の医療費をみると、非受診者の方が高くなった。

がんの早期発見から適切な治療へつなげるには、健康・医療に関する正しい情報を集め、理解・活用する能力(ヘルスリテラシー)が重要だ。しかし、国民のヘルスリテラシーの平均点を国際比較した研究で、日本は欧米やアジアなど15カ国・地域で最下位だった。

中川氏は、日本の保健教育の問題を指摘。ヘルスリテラシーの低さが受動喫煙対策の遅れ、がん検診受診率の低さ、HPVワクチンの接種率の低さにつながり、がん対策に影響していると

説明した。ただ、新学習指導要領によって2021年度以降は全国の中学校、高校でがん教育が始まっている。

一方、がんの男女別・年代別の罹患

数は、子宮頸がんや乳がんなどで50歳代までは女性が多い。女性の社会進出、継続雇用・定年延長などで働く世代のがん罹患は増加が予想される。がん対策推進企業アクション(賛同約4500社・団体)による中小・小規模事業所でのがん対策の実態調査で「大いに関心がある」「関心がある」と回答した経営者は約7割を占めた。

第4期計画は、事業主や医療保険者に、雇用者や被保険者・被扶養者ががん検診やがんの治療と仕事の両立など、がんに関する正しい知識を得られるよう、努めることを求めている。

がんリスクは主に喫煙(受動喫煙)、ウイルス感染、飲酒で高まる。肝がん、胃がん、子宮頸がんは抗ウイルス薬、ピロリ菌除菌、HPVワクチン接種でリスクを低減できるが、日本人の罹患数は欧米より多い。中川氏はこれらを理解してもらうことも有効だと助言した。

がん検診は健康増進法で自治体を実施すると定められているが、職域での実施に法的根拠はない。第4期計画は感染対策の強化、受診率目標の50%から60%への引き上げに加え、職域



聴講者からの質問に答える中川恵一氏(左)

を含めた組織型検診の構築を目指すことも掲げている。

質疑応答では、ヘルスリテラシーを身に付ける手段として、中川氏は、働く人や家族が基礎知識を学べる「がんリテラシーLINE」、テストと解説で構成し、企業(職場)単位で受講できる「するがんリテラシー診断」など協会のプロジェクトを挙げ、「ぜひ、このプロジェクトを利用してほしい」と話した。

職域検診の法整備については「働く世代の6～7割は職域でのがん検診であり、法的裏付けは必要だが、最低5年、長ければ10年かかる。企業の自助努力も必要」。また、がん告知後の退職・解雇について「まだ、がんは『死の病』というイメージがあるようだが、早期がんは9割以上が助かる。ヘルスリテラシーの向上で誤った行動を防げるのでは」と話した。



今回は7月20日午後2時から、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の玉井孝直社長、経済産業省ヘルスケア産業課の山崎牧子課長補佐を講師に迎える。

がん相談ホットライン 03-3541-7830

毎日受け付けています

時間は当分の間、10:00～13:00 15:00～18:00

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談の予約はインターネットの専用フォームで受け付けます。がん専門医による相談は今年度休止します



社労士による電話相談

態勢縮小のため
電話が繋がりにくい
ことがあります。
何卒ご了承ください

2021年度グループ支部 がん検診の実施状況から

■全体

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精密検査の結果								AIS
				がん総数 (D)	がん疑い	CINⅠ (軽度)	CINⅡ (中等度)	CINⅢ			CINⅠ～Ⅲ の区分不明	
								高度	上皮がん	詳細不明		
北海道	53,242	680	637	15	0	157	64	69	6	0	0	1
青森	37,814	583	495	6	－	148	63	32	15	－	8	－
岩手	37,462	762	641	4	0	143	27	23	17	2	0	1
宮城	105,670	1,131	1,078	6	0	410	148	65	18	0	0	0
秋田	20,920	384	327	1	－	127	32	26	2	－	－	－
山形	35,983	473	405	0	0	109	43	0	0	22	0	2
福島	66,952	726	645	12	291	127	82	－	－	56	－	－
茨城	88,001	1,337	1,175	6	－	340	107	－	－	75	－	1
栃木	40,991	1,120	946	2	0	440	96	52	4	0	0	1
群馬	22,964	206	184	4	19	53	21	9	2	2	0	0
埼玉	10,170	71	50	2	0	13	13	－	－	8	0	0
千葉	75,155	1,018	836	6	3	284	81	29	7	0	3	2
新潟	44,186	711	597	5	109	152	61	42	－	－	1	3
山梨	121	3	0	0	－	－	－	－	－	－	－	－
長野	14,447	191	142	2	6	41	15	0	0	10	2	1
富山	42,479	412	370	2	0	121	41	33	7	0	0	1
石川	13,796	118	104	4	－	41	10	18	－	－	－	－
福井	31,037	230	126	3	0	45	12	43	0	0	0	0
愛知	5,218	89	48	0	－	9	3	4	－	－	－	－
三重	14,860	248	193	0	23	47	13	0	0	8	0	0
滋賀	4,709	6	5	0	－	－	－	－	－	1	－	1
京都	17,378	476	－	0	－	－	－	－	－	－	－	－
兵庫	18,885	546	460	2	1	83	18	18	1	0	10	0
奈良	1,818	9	9	0	0	7	1	0	0	1	0	0
和歌山	1,323	9	6	0	0	0	－	2	－	－	－	－
鳥取	12,360	108	85	1	0	17	8	0	0	11	0	0
島根	7,040	296	128	0	－	－	－	－	－	－	－	－
岡山	15,599	226	128	0	1	18	1	6	3	－	5	3
広島	10,598	302	273	6	0	67	19	6	2	2	1	0
山口	4,553	100	16	0	0	5	0	0	0	3	0	0
徳島	5,434	230	113	1	0	11	10	0	9	0	1	0
香川	10,907	130	123	3	0	45	9	14	0	2	0	1
愛媛	21,113	155	139	5	0	39	15	27	0	0	0	1
高知	23,679	170	113	1	－	22	8	18	6	－	－	－
福岡	52,341	793	632	17	0	201	60	53	8	28	5	1
佐賀	34,639	963	706	12	148	279	58	4	3	50	－	－
長崎	13,721	209	188	0	37	89	28	7	0	5	3	1
熊本	35,227	792	660	9	0	91	40	17	2	25	3	2
大分	15,645	282	252	2	0	71	31	17	3	3	0	3
宮崎	12,403	291	247	2	1	82	14	12	6	0	1	2
鹿児島	42,910	390	362	3	36	116	50	25	1	0	2	2
沖縄	12,016	263	220	1	13	56	20	5	0	0	0	0
合計	1,135,766	17,239	13,864	145	688	4,106	1,322	676	122	314	45	30

◆子宮頸がん

精密検査の結果				精検不要の 人数 (E)	精検受診の 有無を把握し ていない人数 (F)	精検の結果 を把握して いる人数 (G)	要精検率 (B/A)	精検受診率 (C/B)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 の集中度 (D/B)	支部名
子宮頸がん 以外のがん	がん以外の 疾患	異常なし	その他の 結果								
5	0	15	305	52,562	43	637	1.28%	93.68%	0.03%	2.21%	北海道
2	10	176	30	37,231	88	490	1.54%	84.91%	0.02%	1.03%	青森
5	331	88	0	36,700	121	641	2.03%	84.12%	0.01%	0.52%	岩手
0	51	380	0	104,539	53	1,078	1.07%	95.31%	0.01%	0.53%	宮城
3	63	73	0	20,536	57	327	1.84%	85.16%	0.00%	0.26%	秋田
1	0	188	41	35,510	68	406	1.31%	85.62%	0.00%	0.00%	山形
4	-	73	-	66,226	81	645	1.08%	88.84%	0.02%	1.65%	福島
10	473	163	-	86,664	162	1,175	1.52%	87.88%	0.01%	0.45%	茨城
4	28	319	0	39,871	174	946	2.73%	84.46%	0.00%	0.18%	栃木
0	36	40	0	22,758	22	186	0.90%	89.32%	0.02%	1.94%	群馬
0	1	14	0	10,099	21	51	0.70%	70.42%	0.02%	2.82%	埼玉
3	210	207	1	74,137	182	836	1.35%	82.12%	0.01%	0.59%	千葉
1	-	158	27	43,475	114	559	1.61%	83.97%	0.01%	0.70%	新潟
-	-	-	-	118	-	0	2.48%	-	-	-	山梨
0	10	46	9	14,256	49	142	1.32%	74.35%	0.01%	1.05%	長野
3	66	96	0	42,067	42	370	0.97%	89.81%	0.00%	0.49%	富山
1	6	15	4	13,678	14	99	0.86%	88.14%	0.03%	3.39%	石川
0	19	3	1	30,807	104	126	0.74%	54.78%	0.01%	1.30%	福井
-	1	16	10	5,129	41	43	1.71%	53.93%	0.00%	0.00%	愛知
0	47	44	11	14,612	55	193	1.67%	77.82%	0.00%	0.00%	三重
-	-	2	1	4,703	-	5	0.13%	-	-	-	滋賀
-	-	-	-	16,902	476	0	2.74%	-	-	-	京都
0	124	173	-	18,339	86	430	2.89%	84.25%	0.01%	0.37%	兵庫
0	0	0	0	1,809	0	9	0.50%	100.00%	0.00%	0.00%	奈良
-	-	1	1	1,314	-	4	0.68%	-	0.00%	0.00%	和歌山
0	25	23	0	12,252	23	85	0.87%	78.70%	0.01%	0.93%	鳥取
-	-	-	-	6,744	168	0	4.20%	43.24%	0.00%	0.00%	島根
-	51	25	2	15,373	98	115	1.45%	56.64%	0.00%	0.00%	岡山
0	47	122	1	10,296	29	273	2.85%	90.40%	0.06%	1.99%	広島
0	0	4	4	4,453	84	16	2.20%	16.00%	0.00%	0.00%	山口
0	0	19	62	5,204	117	113	4.23%	49.13%	0.02%	0.43%	徳島
0	8	7	34	10,777	7	123	1.19%	94.62%	0.03%	2.31%	香川
0	25	27	0	20,958	16	139	0.73%	89.68%	0.02%	3.23%	愛媛
-	37	21	-	23,509	57	113	0.72%	66.47%	0.00%	0.59%	高知
1	36	49	173	51,548	161	632	1.52%	79.70%	0.03%	2.14%	福岡
2	37	113	-	33,676	257	706	2.78%	73.31%	0.03%	1.25%	佐賀
1	5	12	-	13,512	21	188	1.52%	89.95%	0.00%	0.00%	長崎
2	345	124	0	34,435	132	660	2.25%	83.33%	0.03%	1.14%	熊本
3	40	79	0	15,363	30	252	1.80%	89.36%	0.01%	0.71%	大分
0	40	85	0	12,112	44	245	2.35%	84.88%	0.02%	0.69%	宮崎
0	5	122	0	42,520	28	362	0.91%	92.82%	0.01%	0.77%	鹿児島
1	4	93	27	11,753	43	220	2.19%	83.65%	0.01%	0.38%	沖縄
52	2181	3215	744	1,118,527	3,375	13,640	1.52%	80.42%	0.01%	0.84%	合計

2023年度 がん患者・家族の夢の実現のために 募集枠を拡充 助成総額を倍増 「RFLプロジェクト未来助成金」 公募開始

公益財団法人日本対がん協会は、国内のがん研究を助成する「リレー・フォー・ライフ(RFL)プロジェクト未来研究助成金」の2023年度の助成候補の公募を開始した。がん患者や家族ら支援者の夢の実現につながるような研究が対象となる。多くの応募を呼び掛けている。

この助成事業は、がん患者・家族を支援するとともに、がん征圧をめざして全国各地で行われているチャリティ活動「リレー・フォー・ライフ」への寄付金を基に創設された。11回目となる2023年

度からは、助成総額の限度額が倍増された。

将来の画期的ながん治療や、患者のQOL(生活の質)改善に役立つような基礎研究・臨床研究と、患者・家族のケアに関する研究が対象となる。1件あたりの助成金額は変わらないが、より多くの研究を支援することができるようになった。

プロジェクト未来の詳細については、リレー・フォー・ライフ公式サイト内の特設ページ(<https://relayforlife.jp/project-mirai>)で。



2023年度「プロジェクト未来」公募のポスター(名古屋デザイナー学院・里椎菜さんの作品)

対 象 [分野Ⅰ]…基礎研究・臨床研究(がんの発症メカニズムの解明に向けた基礎研究、新薬開発に関わる基礎・臨床研究、臨床試験、疫学研究等)
[分野Ⅱ]…がんの支持療法、社会面に関する研究(患者・サバイバー・家族の支援、就労、治療後遺症、リハビリ、口腔ケア、がん相談に関する研究)

助 成 金 1件300万円限度(総額2000万円以内)。
研究が複数年にわたる場合、年度ごとに申請する。(最長3年)

応募方法 リレー・フォー・ライフのホームページ「プロジェクト未来」のページから研究助成金申請書をダウンロードして必要事項を明記の上、必要な資料を添えてメール(rfl@jcancer.jp)または郵送で応募する。

締め切り 2023年7月24日(月)午後5時(必着)

問い合わせ先 日本対がん協会「プロジェクト未来」研究助成金係(rfl@jcancer.jp)

新たなコミュニケーションツール 「RFLパスポート」を持って参加しませんか 各地で続々リアル開催 SWRとの同時期開催も

がん患者・家族を支援するとともに、地域全体でがんと向き合い、がん征圧をめざすチャリティー活動「リレー・フォー・ライフ(RFL)」は、各地で2023年度の活動が始まっている。さまざまなリアルイベントが再開される中、リレーヤーの新たなコミュニケーションツールとして「RFLパスポート」が登場し、好評を得ている。

新型コロナウイルス感染症は感染の広がりや落ち着き、感染症法上の分類も季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移った。こうした中、RFLのイベントもコロナ前と同じ規模に戻りつつある。5月13、14日には熊本市で今年度最初の「夜越え」イベントが実施されたほか、埼玉県所沢市、三重県松阪市、和歌山市でもリレーイベン

トが開催された。6月以降もリレーなどのイベントが予定されている。

RFLパスポートは、B7判のパスポートサイズ(タテ128mm×ヨコ91mm)で、各地のリレー会場で入手できる。寺社を巡って御朱印を集めるように、各地のリレー会場を訪ね、実行委員会ごとのオリジナルのスタンプを集めることができる。メモ欄や自分の想いを書き留めるページもある。初めて訪れる会場でリレーヤー同士や実行委員、支援者と交流を深めるきっかけにしてみたい。

コロナ禍の中で始まった新しいリレー「セルフウ

ークリレー(SWR)」もスマートフォンのアプリを使って全国どこからでも好きな時間に気軽に参加できることもあり、リアルのリレーイベントの開催と同時期に1か月間ほどSWRを開催する実行委員会もある。

新たなツールとして登場した「RFLパスポート」



実行委員会ごとにデザインされたスタンプ